

証券コード 6616

2023年6月7日

株 主 各 位

東京都中央区新川一丁目24番1号  
トレックス・セミコンダクター株式会社  
代表取締役 社長執行役員 芝 宮 孝 司

## 第28回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第28回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご通知申し上げます。

なお、当日のご出席に代えて、インターネット等又は書面の方法により議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、2023年6月27日（火曜日）午後5時30分までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2023年6月28日（水曜日）午前10時（受付開始 午前9時30分）
2. 場 所 東京都中央区日本橋二丁目7番1号 東京日本橋タワー  
ベルサール東京日本橋 4階
3. 目的事項  
報告事項 1. 第28期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件  
2. 第28期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）計算書類の内容報告の件  
決議事項  
第1号議案 剰余金処分の件  
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

#### 4. 電子提供措置に関する事項

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しております。

<当社ウェブサイト>

<https://ir.torex.co.jp/ja/meeting.html>



<東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）>

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



（上記の東証ウェブサイトにアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「トレックス・セミコンダクター」又は「コード」に当社証券コード「6616」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。）

#### 5. 電子提供措置事項に修正が生じた場合

電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記4.の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載させていただきます。

#### 6. 議決権行使についてのご案内

議決権行使に際しましては、次頁「議決権行使についてのご案内」をご参照ください。

- ① 書面により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示が無い場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いさせていただきます。
- ② インターネット等と書面の両方で議決権を行使された場合は、インターネット等による議決権の行使を有効な議決権の行使としてお取り扱いさせていただきます。
- ③ インターネット等により議決権を複数回行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権の行使としてお取り扱いさせていただきます。

以 上

◎ 本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りいたします。なお、電子提供措置事項のうち、次の事項につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、お送りする書面には記載しておりません。

- ① 事業報告の「業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況」
- ② 連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」
- ③ 計算書類の「株主資本等変動計算書」「個別注記表」

したがって、当該書面に記載している事業報告、連結計算書類及び計算書類は、会計監査人が会計監査報告を、監査等委員会が監査報告を作成するに際して監査をした対象書類の一部であります。

◎ 株主総会の決議結果については、当社ウェブサイトに掲載させていただきます。



## 議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆さまの大切な権利です。

「株主総会参考書類」をご検討のうえ、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。

**株主総会にご出席される場合**

議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時

2023年6月28日(水曜日)  
午前10時(受付開始:午前9時30分)

**書面(郵送)で議決権を行使される場合**

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、ご返送ください。

行使期限

2023年6月27日(火曜日)  
午後5時30分到着分まで

**インターネットで議決権を行使される場合**

次ページの案内に従って、議案の賛否をご入力ください。

行使期限

2023年6月27日(火曜日)  
午後5時30分入力完了分まで

## 議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書 株主番号 ○○○○○○ 議決権の数 XX 個

御中

×××年 ×月×日

スマートフォン用議決権行使ウェブサイトにログインQRコード

見本

こちらに議案の賛否をご記入ください。

**第1号議案**

- 賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 反対する場合 >> 「否」の欄に○印

**第2号議案**

- 全員賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 全員反対する場合 >> 「否」の欄に○印
- 一部の候補者を反対する場合 >> 「賛」の欄に○印をし、反対する候補者の番号をご記入ください。

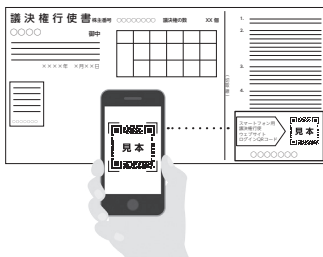
※議決権行使書用紙はイメージです。

# インターネット等による議決権行使のご案内

## QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

- 1 議決権行使書右下に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

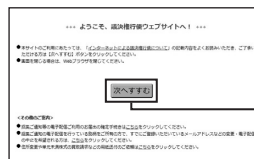
※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォンの操作方法などがご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

## 議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://www.web54.net>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



「次へすすむ」をクリック

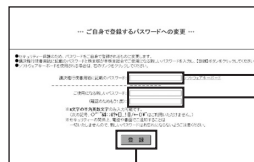
- 2 議決権行使書に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



「議決権行使コード」を入力

「ログイン」をクリック

- 3 議決権行使書に記載された「パスワード」をご入力ください。



「パスワード」を入力

実際にご使用になる新しいパスワードを設定してください

「登録」をクリック

- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル  
電話番号：0120-652-031 (フリーダイヤル)  
(受付時間 9:00~21:00)

機関投資家の皆様は、株式会社ICJの運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームをご利用いただくことが可能です。

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、企業価値の継続的向上を図るとともに、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題の一つとして位置付けており、当期の期末配当については、戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を勘案して、以下のとおりといたしたいと存じます。

なお、本議案が原案のとおり承認可決された場合は、中間配当金を含めた1株当たりの当期の年間配当金は、前期に比べ12円増額の56円となります。

#### 期末配当に関する事項

1. 配当財産の種類  
金銭といたします。
2. 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金28円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は310,270,968円となります。
3. 剰余金の配当が効力を生じる日  
2023年6月29日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案は、指名報酬委員会における審議を経て決定しております。また、監査等委員会での検討の結果として、特段の指摘事項はない旨の意見を受けております。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者は、次のとおりであります。

候補者 番号	氏名	性別	現在の当社における 地位及び担当	2022年度取締役会 出席状況
1	しば みや こう じ <b>芝宮 孝司</b>	再任 男性	代表取締役 社長執行役員 国内営業本部 本部長	16/16回 (100%)
2	きむら たけし <b>木村 岳史</b>	再任 男性	取締役 専務執行役員 開発本部 本部長	16/16回 (100%)
3	みや た たかし <b>宮田 敬史</b>	再任 男性	取締役 執行役員 品質・生産技術本部 本部長	16/16回 (100%)
4	さくらい しげき <b>櫻井 茂樹</b>	再任 男性	取締役 執行役員 管理本部 本部長	12/12回 (100%)
5	いし い ひろゆき <b>石井 弘幸</b>	再任 男性	取締役	16/16回 (100%)

- (注) 1. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 櫻井茂樹氏の2022年度取締役会出席状況は、2022年6月23日の就任以降に開催された取締役会のみを対象としております。
3. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告の27頁「2-(3)③役員等賠償責任保険契約の内容の概要等」に記載のとおりです。取締役候補者の選任が承認されますと、各候補者は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約は、次回更新時においても同内容での更新を予定しております。



所有する当社の株式数

295,900株

取締役会出席状況

16/16回

候補者番号

1

しば みや こう じ  
芝宮 孝司 (1960年6月8日)

再任

### 【略歴、当社における地位及び担当】

- 1983年 4月 阿部写真印刷(株) (現 アベイズム(株)) 入社
- 1986年 8月 日本プレジジョンサーキット(株) (現 セイコー-NPC(株)) 入社
- 1987年10月 (株)リコー入社
- 1993年 4月 フェニテックセミコンダクター(株)入社
- 1999年 7月 当社入社
- 2002年 6月 当社取締役 営業本部長
- 2009年 6月 当社常務取締役 営業本部長
- 2014年 6月 当社専務取締役 事業本部長
- 2015年 6月 当社代表取締役社長
- 2016年 6月 当社代表取締役 社長執行役員
- 2020年 6月 当社代表取締役 社長執行役員 兼 国内営業本部 本部長 (現任)

### 【重要な兼職の状況】

特になし

### 取締役候補者とした理由

芝宮孝司氏は、営業・開発・生産部門の要職を歴任し、当社グループの事業及び会社経営について豊富な経験と幅広い見識を有しており、強いリーダーシップと決断力を発揮して当社グループの成長に向けて全体を牽引しております。この経験・知見を活かして、重要事項の決定及び経営執行の監督の役割を果たし、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待されるため、引き続き取締役候補者といたしました。



所有する当社の株式数

38,000株

取締役会出席状況

16/16回

候補者番号

2

木村 岳史 (1966年1月10日)

再任

### 【略歴、当社における地位及び担当】

- 1989年 4月 (株)リコー入社
- 2003年 4月 トレックスデバイス(株) (現 当社) 入社
- 2007年 4月 当社開発本部 製品開発1部 部長
- 2015年 6月 当社執行役員 事業本部 本部長
- 2018年 6月 当社取締役 常務執行役員 営業本部 本部長
- 2020年 6月 当社取締役 常務執行役員 開発本部 本部長
- 2021年 9月 当社取締役 常務執行役員 開発本部 本部長 兼 管理本部 上席本部長
- 2023年 4月 当社取締役 専務執行役員 開発本部 本部長 (現任)

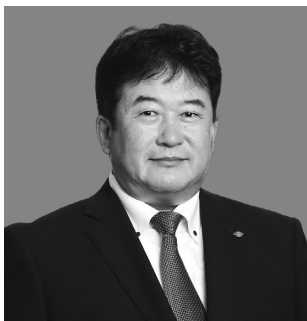
### 【重要な兼職の状況】

- TOREX SEMICONDUCTOR (S)PTE LTD Director
- TOREX USA Corp. Director
- TOREX SEMICONDUCTOR EUROPE LIMITED Director
- TOREX(HONG KONG) LIMITED Director
- 特瑞仕芯电子(上海)有限公司 董事
- 台湾特瑞仕半導體股份有限公司 董事

### 取締役候補者とした理由

木村岳史氏は、開発・営業・管理部門の要職を歴任し、当社製品の設計・開発を中心とした豊富な経験と専門的な知識を有しており、グローバルな視点で市場トレンドを考慮した製品開発を指揮しております。この経験・知見を活かして、重要事項の決定及び経営執行の監督の役割を果たし、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待されるため、引き続き取締役候補者いたしました。





候補者番号

3

 みや た たか し  
 宮田 敬史 (1963年8月15日)

再任

### [略歴、当社における地位及び担当]

- 1986年3月 (株)リコー入社  
 2014年9月 当社入社  
 2015年11月 当社品質保証部 部門長 (現任)  
 2016年7月 当社執行役員 品質保証部 部門長  
 2020年6月 当社取締役 執行役員 品質・生産技術本部 本部長 (現任)

### [重要な兼職の状況]

TOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD 取締役会長

所有する当社の株式数

5,707株

取締役会出席状況

16/16回

### 取締役候補者とした理由

宮田敬史氏は、半導体の品質保証業務を中心とした豊富な経験と専門的な知識を有しており、生産・品質保証部門を統括し、当社製品の品質及び生産体制の維持・向上に貢献しております。この経験・知見を活かして、重要事項の決定及び経営執行の監督の役割を果たし、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待されるため、引き続き取締役候補者いたしました。



候補者番号

4

さくら い しげ き  
櫻井 茂樹

(1961年12月20日)

再任

### 【略歴、当社における地位及び担当】

- 1984年 4月 (株)中国銀行入行
- 2013年 6月 同行リスク統括部 部長
- 2015年 6月 同行コンプライアンス部 部長
- 2017年 3月 大倉工業(株) 社外取締役 (常勤監査等委員)
- 2022年 6月 当社取締役 執行役員 管理本部 本部長 (現任)

### 【重要な兼職の状況】

- TOREX SEMICONDUCTOR (S)PTE LTD Director
- TOREX USA Corp. Director(CFO)
- TOREX SEMICONDUCTOR EUROPE LIMITED Company Secretary
- 特瑞仕芯电子(上海)有限公司 監事
- 台湾特瑞仕半導體股份有限公司 監察人
- TOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD 取締役

所有する当社の株式数

200株

取締役会出席状況

12/12回

### 取締役候補者とした理由

櫻井茂樹氏は、金融機関において支店長、リスク統括部長及びコンプライアンス部長を歴任し、金融・財務・会計及びリスクコンプライアンスに関する豊富な経験と専門的な知識を有しており、管理部門を統括し、財務力並びにリスク管理の強化を推進しております。この経験・知見を活かして、重要事項の決定及び経営執行の監督の役割を果たし、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待されるため、引き続き取締役候補者いたしました。



候補者番号

5

石井 弘幸 (1961年10月5日)

再任

所有する当社の株式数

19,950株

取締役会出席状況

16/16回

### 【略歴、当社における地位及び担当】

- 1984年 4月 フェニテックセミコンダクター(株)入社
- 2003年 2月 同社生産本部 技術部 部長
- 2008年 4月 同社執行役員 生産本部 技術部 部長
- 2015年 6月 同社取締役 生産本部 技術部 部長 兼 開発部 部長
- 2016年 4月 同社取締役 生産本部 副本部長
- 2017年 9月 同社取締役 事業企画室 室長
- 2019年 6月 同社取締役 常務執行役員 事業企画室 室長
- 2020年 6月 同社代表取締役 社長執行役員 (現任)
- 2020年 6月 当社取締役 (現任)

### 【重要な兼職の状況】

フェニテックセミコンダクター株式会社 代表取締役 社長執行役員

### 取締役候補者とした理由

石井弘幸氏は、当社子会社のフェニテックセミコンダクター株式会社代表取締役社長執行役員を兼務しております。同社において、技術・開発部門及び経営企画部門の要職を歴任し、製造・開発並びに当社グループの事業経営に関する豊富な経験と専門的な知識を有しており、グループシナジーの相乗効果による事業拡大に貢献しております。この経験・知見を活かして、重要事項の決定及び経営執行の監督の役割を果たし、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待されるため、引き続き取締役候補者としていたしました。

## ご参考 本定時株主総会後の取締役のスキル・マトリックス

当社は、取締役候補者を選任するにあたり、当社グループの事業又は経営管理に精通した社内取締役を一定数確保しつつ、他社での経営経験や法律・会計等の専門的な知識・経験を有する社外取締役を招聘することにより、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性の確保に努めております。

当社は、当社の企業理念や経営戦略に照らして、取締役会がその意思決定機能及び経営の監督機能を適切に発揮するために備えるべき専門性・経験を以下のとおり特定いたしました。

また、ガバナンス、サステナビリティに関する見識は、取締役全員が備えていると考えております。

氏名	当社における地位	専門性・経験					
		企業経営	財務・会計	法務・リスクコンプライアンス	製造・開発・品質保証	営業・マーケティング	国際経験・グローバル
芝宮 孝司	代表取締役 社長執行役員	○			○	○	○
木村 岳史	取締役 専務執行役員	○			○	○	○
宮田 敬史	取締役 執行役員	○			○		
櫻井 茂樹	取締役 執行役員		○	○		○	
石井 弘幸	取締役	○			○		○
池田 耕太郎	<b>社外 独立</b> 取締役 (監査等委員・常勤)	○	○	○			
小松 熙	<b>社外 独立</b> 取締役 (監査等委員)	○		○	○		
川俣 尚高	<b>社外 独立</b> 取締役 (監査等委員)			○			
廣瀬 由美	<b>社外 独立</b> 取締役 (監査等委員)		○	○			

以上

# 事業報告

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限とその緩和、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による資源価格の高騰、欧米におけるインフレ加速に伴う政策金利の上昇などの影響から減速感が強まりました。日本経済においては、激しい為替相場の変動や資源価格の高騰、電気料金の値上げなどにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属するエレクトロニクス市場におきましては、昨年度より5G、IoT、DXの進展とデータセンター需要の拡大を背景に堅調に推移しておりましたが、年々からはPC需要の急激な減少、世界経済の停滞懸念や中国でのロックダウン実施による生産の減速とこれらに伴う在庫調整が発生するなど、市場全体の減速傾向が鮮明になりました。

このような環境のなかで、当社グループは、経営理念にある「市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献する」ため、電気機器の小型化・省電力化に「電源」の観点から取り組み、収益力の強化と持続的な成長の実現に向けて、従業員の感染症対策としてテレワークや時差出勤などを引き続き講じつつ、以下の諸施策を継続的に推進してまいりました。

- ・当社東京技術センター、関西技術センター及び米国R&Dセンターにおいて、マーケットインの発想に立脚した、差別化のできる高付加価値な汎用製品、及びターゲット市場として注力する車載機器・産業機器に向け、特長ある製品を迅速に市場へ投入していくため開発活動を進めました。
- ・品質向上とコスト削減を両立させるべく、製品企画段階からのコスト分析の徹底、生産計画の効率化を進めるとともに、協力会社や製造子会社との協力体制を深め、同業他社に比して競争力のある製造コストと安定供給、納期対応の実現を進めました。
- ・顧客訪問に加え、オンラインも活用しながら、各地域に密着した営業活動を継続し、顧客の要望や製品企画への迅速かつ柔軟な対応と営業基盤の維持に努めました。
- ・製品需要に対しては、世界的に半導体需要が高まる中、生産力を確保するべく、更なる設備投資を推進し、一方で、原材料価格の高騰に対しては、製品販売価格の値上げを進めております。

- ・当社グループのビジネスの成長を加速させるため、超低損失と低価格の両立が期待されるβ型酸化ガリウムを使用したパワーデバイスの開発を行う株式会社ノベルクリスタルテクノロジーに対して出資を行っており、新製品開発に関して様々なフェーズにおける活動を進め、連携を深めました。
- ・グループ収益の最大化につなげるため、フェニテックセミコンダクター株式会社とのシナジー効果を高め、共同プロジェクトを推進しました。
- ・フェニテックセミコンダクター株式会社においては、製品の長期・安定供給体制と競争力のある製品づくり及び生産性向上に加え、半導体需要の高まりに対応するため、岡山第1工場・鹿児島工場において、更なる投資を進めております。

業績としましては、年度後半には半導体市場は急激な減速となったものの、前半の旺盛な需要と為替市場の円安傾向により、年間を通じては、売上、営業利益ともに前年増となりました。当期純利益につきましては、フェニテックセミコンダクター鹿児島工場の収益性悪化に伴う減損損失の計上により、前年比で減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は319億56百万円（前期比3.5%増）、営業利益は39億76百万円（前期比2.0%増）、経常利益は39億81百万円（前期比3.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は21億79百万円（前期比31.0%減）となりました。

当社グループの事業は、半導体デバイスの開発・製造・販売の単一事業であります。

## (製品別の売上高)

製品区分	第27期 (2022年3月期)		第28期 (2023年3月期) (当連結会計年度)		前連結会計年度比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
V D	2,322百万円	7.5%	2,472百万円	7.7%	150百万円	6.5%
V R	5,782	18.7	5,815	18.2	33	0.6
D C D C	4,319	14.0	5,596	17.5	1,277	29.6
ディスクリート	16,230	52.6	16,751	52.4	520	3.2
その他	2,209	7.2	1,321	4.1	△888	△40.2
合計	30,864	100.0	31,956	100.0	1,092	3.5

VD	電圧検出器 (VD:ボルテージ・ディテクタ) は、電子部品・機器に供給される電圧を監視し、一定の電圧以下に低下した場合に、これを検出して、電子部品・機器をリセットしたり、復帰させるICです。
VR	電圧レギュレータ (VR:ボルテージ・レギュレータ) は、出力電圧を常に監視して、入力電圧や負荷の条件が変化しても、あらかじめ設定したレベルの出力電圧になるように制御する回路です。
DCDC	DC/DCコンバータは、電子部品・機器に供給される電圧を必要な電源電圧に変換する回路です。降圧・昇圧・昇降圧等の多彩な種類があり、効率的に電圧を希望値に変換することができます。
ディスクリート	ディスクリートは、ICやLSIとは異なり、各々1つの機能の素子のみを備えている半導体 (個別半導体) です。具体的にはコンデンサ、トランジスタ、ダイオード、MOSFET、IGBTなどがあります。
その他	「その他」には、マルチチップモジュール (複数のIC等を搭載したモジュール)、各種センサー製品等が含まれます。

## ② 設備投資の状況

当連結会計年度に実施いたしました設備投資の総額は48億50百万円で、その主なものは、当社及び連結子会社であるフェニテックセミコンダクター株式会社の岡山第1工場及び鹿児島工場での新規設備の導入及び関連設備への投資であります。

## ③ 資金調達の状況

機動的かつ安定した資金の調達を行うため、主要取引金融機関と総額58億50百万円の当座貸越契約及び総額10億円のコミットメントライン契約を締結しております。

## ④ 重要な組織再編等の状況

特筆すべき事項はありません。

## (2) 財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第 25 期 (2020年3月期)	第 26 期 (2021年3月期)	第 27 期 (2022年3月期)	第 28 期 (当連結会計年度) (2023年3月期)
売 上 高 (千円)	21,500,955	23,712,981	30,864,245	31,956,887
営 業 利 益 (千円)	678,161	1,209,294	3,897,675	3,976,219
経 常 利 益 (千円)	676,222	1,206,211	4,124,574	3,981,298
親会社株主に帰属 する当期純利益 (千円)	417,513	933,591	3,157,348	2,179,807
1株当たり当期純利益 (円)	38.03	85.42	288.60	198.69
総 資 産 (千円)	27,846,962	31,512,129	34,770,317	37,048,739
純 資 産 (千円)	18,671,901	19,789,922	22,729,277	24,593,934
1株当たり純資産額 (円)	1,712.30	1,808.96	2,077.66	2,236.24

(注) 第27期の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第27期以降の各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値になっております。



## ② 当社の財産及び損益の状況

区 分	第 25 期 (2020年3月期)	第 26 期 (2021年3月期)	第 27 期 (2022年3月期)	第 28 期 (当事業年度) (2023年3月期)
売 上 高 (千円)	8,769,718	8,724,498	12,863,379	12,614,202
営 業 利 益 (千円)	283,168	242,002	1,219,390	1,651,264
経 常 利 益 (千円)	442,567	764,740	2,091,333	3,099,267
当 期 純 利 益 (千円)	286,777	730,725	1,605,254	2,516,635
1 株当たり当期純利益 (円)	26.12	66.86	146.73	229.39
総 資 産 (千円)	14,692,779	16,888,707	18,212,073	20,391,123
純 資 産 (千円)	11,213,135	11,599,363	12,802,260	14,905,357
1 株当たり純資産額 (円)	1,028.29	1,060.27	1,170.24	1,355.29

(注) 第27期の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第27期以降の各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値になっております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
TOREX SEMICONDUCTOR (S) PTE LTD	100千 シンガポール ドル	100.0%	半導体集積回路等の販売
TOREX USA Corp.	2,700千 米ドル	100.0	半導体集積回路等の販売及び開発
TOREX SEMICONDUCTOR EUROPE LIMITED	1千 英ポンド	100.0	半導体集積回路等の販売
特瑞仕芯电子(上海)有限公司	600千 米ドル	100.0	半導体集積回路等の販売
TOREX (HONG KONG) LIMITED	2,500千 香港ドル	100.0	半導体集積回路等の販売
台湾特瑞仕半導體股份有限公司	11,500千 台湾ドル	100.0	半導体集積回路等の販売
TOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD	5,800千 米ドル	100.0	半導体後工程（組立工程）
フェニテックセミコンダクター株式会社	1,600,000千 円	100.0	半導体前工程（ウエハ製造）及びウエハ販売

#### ③ 特定完全子会社の状況

名 称	住 所	株式の帳簿価額	当社の総資産額
フェニテックセミコンダクター株式会社	岡山県井原市木之子町6833番地	5,325百万円	20,391百万円

#### (4) 対処すべき課題

##### ① 環境認識

世界経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限とその緩和、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による資源価格の高騰、欧米におけるインフレ加速に伴う政策金利の上昇など先行き不透明な状況が続いており、当社グループの事業領域である半導体デバイス市場においても、PC需要の減少や世界経済の停滞懸念に伴い在庫調整の局面に入りました。しかしながら、産業機器の自動化・デジタル化、データセンターなどのITインフラの整備・拡大、自動車の電子化などの進展といった傾向は変わらず、中長期的には拡大していく見通しです。

また、世界的な半導体への投資競争や、開発・製造技術の進展及び新興国をはじめとした新規参入などを背景に、競争環境は一層厳しさを増しつつあります。

##### ② 長期ビジョン及び中期経営計画

###### <長期ビジョン>

トレックスグループは、企業理念に「地球環境の保全」を掲げ、省電力・小型、低損失な電源ICやパワーデバイスの開発及び生産を我々の「強み」として行ってまいりました。これからも、この「強み」を生かし、地球環境の保全と脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

###### <中期経営計画>

当社は、2021年度を初年度とする中期経営計画において「グリーントランスフォーメーション（GX）の推進」を掲げております。具体的には、電子回路の省電力化と実装基板の縮小化、発熱を抑える低損失パワーデバイスを推進することにより、脱炭素社会に貢献し、GXを半導体で支えるグローバル企業を目指します。

これらに対し、着実に成果をあげていくべく、「企画」「開発」「生産」「販売」「品質」「新事業領域」の各々について、以下の方針・施策を推進してまいります。

###### a. 企画

当社グループは、産業機器のデジタル化、ITインフラ整備・拡大や自動車の電子化などにより拡大していくと予見される半導体デバイス市場において、脱炭素社会の実現に向け、市場や顧客のニーズの変化を的確にとらえ、マーケット志向で差別化のできる高付加価値な製品を、タイムリーにターゲット市場である車載・産機・医療市場へ投入すべく製品企画を行ってまいります。

## b. 開発

当社グループの企画力や技術優位性を活かした、省電力・小型、低損失な電源ICやパワーデバイスの製品をタイムリーに市場へリリースできるよう継続した製品開発を行ってまいります。これに向け、IT基盤の強化や、提携先企業における製品開発を推進することで、開発担当部門の機動性を高めてまいります。また、戦略的提携先との共同開発や相互OEM供給のほか、重点分野に向けた当社グループの総力を挙げた研究開発等にも取り組むことによって、社内外の最新技術の活用と迅速な市場投入を図ってまいります。

## c. 生産

当社グループは、製品の長期・安定供給体制と競争力のある製品づくりを両立させるため、子会社のフェニテックセミコンダクター株式会社やTOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD及びグループ外の協力工場の双方を活用し、製品の品種・価格・用途及び市場の変化に応じた最適な生産リソースの配分を追求します。当社グループ内においては、シナジー効果を高め、製品企画段階からのコスト分析の徹底、生産計画の効率化、原価低減活動等を通じて協力体制を深め、生産方法や生産管理手法を含めた改良・改善に努め、製品の長期・安定供給体制を維持するため、積極的に設備投資を実施してまいります。また、グループ外として、協力工場との協業においては、ファブレス形態のメリットを活かしつつ、様々な形で協力関係を強化し、グループ外の先進的な生産技術・ノウハウを製品づくりに活用します。

前連結会計年度から当連結会計年度にかけては世界的に半導体需要が急拡大し、当社においても一時的に需要に供給が追い付かない事態となりました。こうした状況は将来的にも発生する可能性が高く、これを回避するため、グループ内外の製造拠点に対し、積極的な設備投資を行い、生産能力を高める活動をしてまいりました。これらの設備を活用し、同業他社に比して安定した需給環境、納期対応の実現と競争力のある製造コストの両立を推進してまいります。

## d. 販売

当社グループは、顧客の要望や製品企画を汲み取りながら、幅広い技術・製品情報の提供を通じて製品販売を促進するソリューション提案営業を基本としております。製品をタイムリーにターゲット市場へ投入するためと、適切な納期対応のため、営業情報の社内へのフィードバックと密な連携を強化してまいります。また、当社グループの事業はワールドワイドで展開されており、これに伴う海外事業の比重はますます拡大する傾向にあります。これに対応するために、海外販売子会社のローカル営業体制の強化、フィールド・アプリケーション・エンジニアの配置・増員による顧客サポート強化、当社グループが保有する顧客基盤、ブランド及び販売ネットワークの効果的な組合せに積極的に取り組んでまいります。

#### e. 品質

当社グループは、常に顧客の信頼に添えていくため、製品に対して要求される品質の確保に全力で取り組んでまいります。定期的な協力工場監査等を実施するとともに、重点市場を意識した品質保証体制の強化のため、「生産」「開発」「品質」に関わる各部門が密接に協調し、新規技術に対応するための投資も実施いたします。また、当社グループ内で保有する品質管理に関わる技術・設備・ノウハウを持ち寄り、各種の認証制度にも的確に対応した品質管理・保証体制の強化を図ってまいります。

#### f. 新事業領域

アナログ技術に基盤を置きながら、新たな成長市場への参入を目指して、既存の製品ラインナップにない新しい分野の製品を当社グループの新たな柱に育てていくべく、当社グループ内の研究開発体制を強化するとともに、グループ外の企業・大学・研究機関等との協業の機会を積極的に検討してまいります。

なお、中期経営計画設定当初と短期的な市況の変化はありますが、課題と当社の方針・施策については、大きな変更はありません。

(5) 主要な事業内容 (2023年3月31日現在)

事業区分	事業内容
半導体事業	半導体デバイスの開発・製造・販売

(6) 主要な事業所・工場 (2023年3月31日現在)

① 当社

本社	東京都中央区
関西支社	大阪府吹田市
名古屋営業所	愛知県名古屋市中区
札幌技術センター	北海道札幌市北区
岡山分室	岡山県井原市
鹿児島島分室	鹿児島県始良郡湧水町

② 子会社

TOREX SEMICONDUCTOR(S) PTE LTD	本社 (シンガポール共和国 シンガポール市(アジア))
TOREX USA Corp.	本社・R&D Center (米国 カリフォルニア州(北米))
TOREX SEMICONDUCTOR EUROPE LIMITED	本社 (英国 レスター州(欧州))
特瑞仕芯电子(上海)有限公司	本社 (中国 上海市(アジア))
TOREX (HONG KONG) LIMITED	本社 (中国 香港特別行政区(アジア))
台湾特瑞仕半導體股份有限公司	本社 (台湾 台北市(アジア))
TOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD	本社・工場 (ベトナム社会主義共和国 ビンズオン省(アジア))
フェニテックセミコンダクター株式会社	本社・工場 (岡山県井原市(日本)) 鹿児島工場 (鹿児島県始良郡(日本))

## (7) 使用人の状況 (2023年3月31日現在)

## ① 企業集団の使用人の状況

事業区分	使用人数	前連結会計年度末比増減
日本	884名	40名増
アジア	163名	8名減
欧州	10名	2名減
北米	6名	1名減
合計	1,063名	29名増

(注) 使用人数は就業人員であります。

## ② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
182名	8名増	43.9歳	12.2年

(注) 使用人数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であります。

## (8) 主要な借入先の状況 (2023年3月31日現在)

当社グループの主要な借入状況

借入先	借入金残高
株式会社中国銀行	5,794百万円
株式会社三井住友銀行	1,129百万円
株式会社みずほ銀行	710百万円

(注) 当社は運転資金の安定的かつ効率的な調達を行うため、主要取引金融機関と以下の契約を締結しております。

- ①借入極度額 5,850百万円の当座貸越契約。当契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高は1,900百万円になります。
- ②借入極度額 1,000百万円のコミットメントライン契約。当契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高はございません。

## (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2023年3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 36,673,600株
- ② 発行済株式の総数 11,554,200株
- ③ 単元株式数 100株
- ④ 株主数 5,683名
- ⑤ 大株主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	872,300株	7.87%
THE BANK OF NEW YORK 133652	764,900	6.90
藤 阪 知 之	489,160	4.41
株 式 会 社 中 国 銀 行	472,190	4.26
ア ル ス 株 式 会 社	452,000	4.08
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	425,500	3.84
吉 備 興 業 株 式 会 社	397,730	3.59
尾 崎 貴 紀	321,500	2.90
芝 宮 孝 司	295,900	2.67
株 式 会 社 日 本 カ ス ト デ ィ 銀 行 ( 信 託 口 )	253,630	2.29

(注) 1. 当社は、自己株式を473,094株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。なお、自己株式には、取締役を対象とする株式報酬制度に係る信託が保有する当社株式83,230株を含めておりません。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### ⑥ 当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に対し交付した株式の状況

	株 式 数	交 付 対 象 者 数
取締役 (監査等委員及び社外取締役を除く)	6,230株	1名
社外取締役 (監査等委員を除く)	—	—
監査等委員	—	—

(注) 1. 当社の株式報酬の内容につきましては、「2-(3)④取締役の報酬等」(27頁)に記載しております。



す。

2. 上記は、退任した会社役員に対して交付された株式です。

⑦ その他株式に関する重要な事項

当社は、2022年5月31日開催の取締役会において、従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブとしての自己株式の処分について決議し、2022年9月26日付で自己株式49,600株を処分いたしました。

(2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員 の 状況

#### ① 取締役 の 状況 (2023年3月31日現在)

会社における地位	氏 名	担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代表取締役 社長執行役員	芝 宮 孝 司	国内営業本部 本部長
取 締 役 常務執行役員	木 村 岳 史	管理本部 上席本部長 開発本部 本部長 TOREX SEMICONDUCTOR (S)PTE LTD Director TOREX USA Corp. Director TOREX SEMICONDUCTOR EUROPE LIMITED Director TOREX(HONG KONG) LIMITED Director 特瑞仕芯电子(上海)有限公司 董事 台湾特瑞仕半導體股份有限公司 董事
取 締 役 執行役員	宮 田 敬 史	品質・生産技術本部 本部長 TOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD 取締役会長
取 締 役 執行役員	櫻 井 茂 樹	管理本部 本部長 TOREX SEMICONDUCTOR (S)PTE LTD Director TOREX USA Corp. Director(CFO) TOREX SEMICONDUCTOR EUROPE LIMITED Company Secretary 特瑞仕芯电子(上海)有限公司 監事 台湾特瑞仕半導體股份有限公司 監察人 TOREX VIETNAM SEMICONDUCTOR CO.,LTD 取締役
取 締 役	石 井 弘 幸	フェニテックセミコンダクター株式会社 代表取締役社長執行役員
取 締 役 (監査等委員・常勤)	池 田 耕 太 郎	—
取 締 役 (監査等委員)	小 松 熙	—
取 締 役 (監査等委員)	川 俣 尚 高	弁護士 丸の内総合法律事務所 パートナー 株式会社ニッポン 社外取締役 日本電設工業株式会社 社外取締役 (監査等委員)
取 締 役 (監査等委員)	廣 瀬 由 美	税理士 廣瀬由美税理士事務所 所長 株式会社カプコン 社外取締役

- (注) 1. 取締役 櫻井茂樹氏及び取締役 (監査等委員) 廣瀬由美氏は、2022年6月23日開催の第27回定時株主総会において新たに選任されました。
2. 取締役 日笠基氏及び取締役 (監査等委員) 清水満昭氏は、2022年6月23日開催の第27回定時株主

総会終結の時をもって任期満了により退任いたしました。

3. 取締役（監査等委員）池田耕太郎氏、小松熙氏、川俣尚高氏及び廣瀬由美氏は社外取締役であり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 取締役（監査等委員）池田耕太郎氏及び廣瀬由美氏は、以下のとおり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
  - ・取締役（監査等委員）池田耕太郎氏は、長年にわたり金融機関に在籍し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
  - ・取締役（監査等委員）廣瀬由美氏は、税理士資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当社は、取締役会以外の重要な会議への出席を継続的・実効的に行うなど、情報収集や監査の実効性を高めることを目的として、常勤の監査等委員を置いております。
6. 2023年4月1日付で、木村岳史氏は、常務執行役員から専務執行役員に就任し、管理本部上席本部長を退任いたしました。

## ② 責任限定契約の内容の概要

当社と各監査等委員は、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額としております。

## ③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、保険会社との間で、当社の取締役（監査等委員である取締役を含む）及び「1－(3)②子会社の状況」（18頁）に記載の当社の子会社の取締役及び監査役（当事業年度中に在任していた者を含む）を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額当社が負担しております。

当該保険契約の内容の概要は、被保険者が、その職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により保険会社が填補するものであり、1年毎に契約更新しております。

なお、当該保険契約では、填補する額について限度額を設けることにより、当該役員の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置を講じております。

次回更新時には、同内容での更新を予定しております。

## ④ 取締役の報酬等

### イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を取締役会で決議しております。当該取締役会の決議に際しては、あらかじめ決議する内容について指名報酬委員

会へ諮問し、答申を受けております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が当該決定方針と整合していることや、指名報酬委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は次のとおりです。

#### i) 基本方針

当社の取締役報酬の考え方は、当社グループの企業理念に基づき、当社グループの持続的な成長及び企業価値の向上に資する健全なインセンティブとして機能させることを目的とする。

その基本方針は、以下のとおりである。

- a. 企業理念に基づく経営ビジョンの実現にあたって、優秀及び的確な能力要件を満たすグローバルな経営陣の確保とリテンションに資するものであること。
- b. 当社グループの業績との連動性があり、株主との利害共有、当社グループの持続的な成長及び企業価値向上と報酬が連動するものであること。
- c. 個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすること。
- d. 過半数を独立社外取締役で構成する指名報酬委員会の審議を経ることで、報酬決定に係る判断の透明性、客観性を確保すること。

具体的には、取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬は、基本報酬（金銭報酬）と、業績連動報酬等としての金銭報酬ならびに非金銭報酬等としての株式報酬により構成する。監査等委員である取締役の報酬は、その役割と独立性の観点から、基本報酬(金銭報酬)のみを支払うこととする。

#### ii) 基本報酬に関する方針

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）の基本報酬は、月例の固定報酬とし、役位、職責に応じて、当社及び当社グループの業績、子会社取締役報酬、当社従業員給与等の水準及び同事業規模他社の水準をも考慮し、総合的に勘案して決定するものとする。

### iii) 業績連動報酬等ならびに非金銭報酬等に関する方針

業績連動報酬等は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため業績指標（KPI）を反映した金銭報酬とし、各事業年度の単体営業利益目標値に対する達成度合い及び各取締役の業績を踏まえ算出された額を賞与として、定時株主総会終了の翌月に支給する。目標となる業績指標と各取締役の目標は、中期経営計画と整合するよう事業年度計画策定時に設定し、適宜環境の変化に応じて指名報酬委員会の答申を踏まえた見直しを行うものとする。

非金銭報酬等は、株式交付信託による株式報酬とし、その算定方法は役員向け株式交付規程に定められている。具体的には、役位、在任年数に応じて算出された固定部分ポイントと各事業年度の連結営業利益の目標値に対する達成度合いに応じて算出した業績連動部分ポイントの合計数に相当する株式等を退任時に支給する。

### iv) 報酬等の割合に関する方針

取締役 業務執行役員の種類別の報酬割合については、当社と同程度の事業規模や関連する業種・業態に属する企業をベンチマークとする報酬水準を踏まえ、当社グループの業績が拡大するにつれて業績連動報酬のウェイトが高まる構成とし、取締役の個人別の報酬等の額に対する割合をKPI 100%達成の場合で、基本報酬：業績連動報酬等：非金銭報酬等＝7：1.5：1.5 の割合とすることを目安にして、指名報酬委員会において答申を行い、取締役会は指名報酬委員会の答申内容を尊重し、取締役の個人別の報酬等の内容を決定することとする。

(注)業績連動報酬等は、役員賞与(金銭賞与)であり、非金銭報酬等は、株式交付信託による株式報酬である。

### v) 取締役の個人別報酬等の内容の決定に関する事項

個人別の報酬の額（監査等委員である取締役を除く）については、株主総会の決議により承認された報酬限度の範囲内で、取締役会にて代表取締役に一任する。その一任の内容は、各取締役（監査等委員である取締役を除く）の基本報酬の額及び各取締役（監査等委員である取締役を除く）の担当業務における業績を踏まえた業績連動報酬等の額とする。当該権限が代表取締役により適切に行使されるよう、指名報酬委員会に原案を諮問し、監査等委員会による意見を踏まえるものとする。また、非金銭報酬等は、役員向け株式交付規程に定められた方法でポイントを算出し指名報酬委員会の答申及び監査等委員会の意見を踏まえて付与ポイントを決定する。

なお、監査等委員である取締役の報酬は、株主総会の決議により承認された報酬限度の範囲内で、監査等委員である取締役の協議により決定する。

ロ. 当事業年度に係る報酬等の総額等

区 分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績連動 報酬等	非金銭 報酬等	
取締役 (監査等委員を除く) (うち社外取締役)	128,926 (-)	97,589 (-)	24,070 (-)	7,267 (-)	5 (-)
取締役 (監査等委員) (うち社外取締役)	34,918 (34,918)	34,918 (34,918)	- (-)	- (-)	5 (5)
合 計 (うち社外取締役)	163,845 (34,918)	132,508 (34,918)	24,070 (-)	7,267 (-)	10 (5)

- (注) 1. 上表には、2022年6月23日開催の第27回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した取締役 (監査等委員を除く) 1名 (うち社外取締役0名) 及び取締役 (監査等委員) 1名 (うち社外取締役1名) を含んでおります。
2. 上表には、無報酬の監査等委員でない取締役1名を含んでおりません。
3. 上表の業績連動報酬等は、当事業年度における役員賞与引当金繰入額24,070千円 (取締役 (監査等委員を除く) 4名に対し24,070千円) です。
4. 上表の非金銭報酬等は、当事業年度における株式給付引当金繰入額7,267千円 (取締役 (監査等委員を除く) 5名に対し7,267千円) です。
5. 業績連動報酬等として取締役 (監査等委員を除く) に対して金銭による賞与を支給しております。当社は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため、各事業年度の単体営業利益目標値に対する達成度合いを業績連動報酬の指標にしております。業績連動報酬等の算定方法は、業績指標及び各取締役の業績を踏まえ算出しております。なお、当事業年度に係る単体営業利益の実績は、1,651,264千円でした。
6. 非金銭報酬等の内容は、株式交付信託による株式報酬であり、割当ての際の条件等は「イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等」のとおりであります。株式交付信託による株式報酬は、基本部分と業績連動部分で構成され、業績連動部分の業績指標は、単年度の連結業績に連動させ、本業から発生する利益を重視し、各事業年度の連結営業利益目標値に対する達成度合いとしております。なお、当事業年度に係る連結営業利益の実績は、3,976,219千円でした。また、当事業年度における交付状況は「2-(1)⑥当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に対し交付した株式の状況」に記載しております。

7. 取締役（監査等委員を除く）の報酬限度額は、2016年6月23日開催の第21回定時株主総会において、年額500百万円以内と決議しております（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、6名（うち、社外取締役は0名）です。また、2017年6月27日開催の第22回定時株主総会において、株式報酬の額として報酬限度額内で3年で180百万円以内と決議しております。当該株主総会終結時点の取締役（社外取締役を除く）の員数は5名です。
8. 監査等委員の金銭報酬の額は、2016年6月23日開催の第21回定時株主総会において、年額40百万円以内と決議しております。当該株主総会終結時点の監査等委員の員数は4名です。
9. 取締役会は、代表取締役社長執行役員芝宮孝司に対し各取締役（監査等委員を除く）の基本報酬の額及び担当部門の業績等を踏まえた賞与の評価配分の決定を委任しております。委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役（監査等委員を除く）の担当部門について評価を行うには代表取締役が適していると判断したためであります。取締役会は、当該権限が代表取締役によって適切に行使されるよう、事前に指名報酬委員会へ諮問し、答申を受ける等の措置を講じており、当該手続きを経て取締役（監査等委員を除く）の個人別の報酬額が決定されていることから、取締役会はその内容が決定方針に沿うものであると判断しております。

#### ⑤ 社外取締役に関する事項

##### イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

区分	氏名	重要な兼職の状況
取締役 (監査等委員)	川 俣 尚 高	丸の内総合法律事務所 パートナー 株式会社ニップン 社外取締役 日本電設工業株式会社 社外取締役（監査等委員）
	廣 瀬 由 美	廣瀬由美税理士事務所 所長 株式会社カブコン 社外取締役

- (注) 1. 社外取締役である池田耕太郎氏及び小松熙氏については、重要な兼職はありません。
2. 当社と社外取締役の各兼職先との間には特別の関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

		出席状況、発言状況及び社外取締役にて期待される役割に関して行った職務の概要
取締役 (監査等委員)	池田 耕太郎	取締役会16回の全てに監査等委員として出席し、金融・財務・会計及び企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識に基づき、経営全般及び主として財務・会計関連分野において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。さらに、当社の重要な会議である執行会議、リスク・コンプライアンス委員会等にも出席し、経営上有用な指摘、発言を適宜行っております。監査等委員会は、17回の全てに出席し、監査意見の形成のため必要な発言を適宜行っております。また、指名報酬委員会の委員を務め、指名報酬委員会7回の全てに出席し、客観的・中立的立場で取締役候補者の選定や役員報酬等の決定過程における監督機能を果たしております。
取締役 (監査等委員)	小松 照	取締役会16回のうち15回に監査等委員として出席し、国際的な製造企業での豊富な経験と幅広い見識に基づき、経営全般及び主として事業関連分野において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。さらに、当社の重要な会議である執行会議、リスク・コンプライアンス委員会等にも出席し、経営上有用な指摘、発言を適宜行っております。監査等委員会は、17回のうち16回に出席し、監査意見の形成のため必要な発言を適宜行っております。また、指名報酬委員会の委員を務め、指名報酬委員会7回の全てに出席し、客観的・中立的立場で取締役候補者の選定や役員報酬等の決定過程における監督機能を果たしております。
取締役 (監査等委員)	川俣 尚高	取締役会16回の全てに監査等委員として出席し、弁護士としての豊富な経験と専門的見地から、経営全般及び主として法務関連分野において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。さらに、法令遵守の観点から、リスク・コンプライアンス委員会にも出席し、当社のコンプライアンス体制等について適宜、必要な発言を行っております。監査等委員会は、17回の全てに出席し、監査意見の形成のため必要な発言を適宜行っております。また、指名報酬委員会の委員を務め、指名報酬委員会7回の全てに出席し、客観的・中立的立場で取締役候補者の選定や役員報酬等の決定過程における監督機能を果たしております。
取締役 (監査等委員)	廣瀬 由美	2022年6月23日就任以降、取締役会12回のうち11回に監査等委員として出席し、税理士としての豊富な経験と専門的見地から、経営全般及び主として税務・会計関連分野において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。さらに、法令遵守の観点から、リスク・コンプライアンス委員会にも出席し、当社のコンプライアンス体制等について適宜、必要な発言を行っております。監査等委員会は、11回の全てに出席し、監査意見の形成のため必要な発言を適宜行っております。また、指名報酬委員会の委員を務め、指名報酬委員会6回のうち5回に出席し、客観的・中立的立場で取締役候補者の選定や役員報酬等の決定過程における監督機能を果たしております。



## (4) 会計監査人の状況

① 名称 有限責任 あずさ監査法人

## ② 報酬等の額

	報 酬 等 の 額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	43,890千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	69,090千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 重要な子会社のうち、フェニテックセミコンダクター株式会社は当社と同じ有限責任あずさ監査法人の監査を受けております。有限責任あずさ監査法人は、KPMGインターナショナルの日本におけるメンバーファームであり、TOREX (HONG KONG) LIMITED、台湾特瑞仕半導體股份有限公司は、KPMGインターナショナルの他のメンバーファームの監査を受けております。また、当社の他の子会社は、当社の会計監査人以外の者（外国における公認会計士又は監査法人に相当する資格を有する者）の監査を受けております。
3. 監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、監査職務遂行状況及び監査報酬見積の算出根拠等を検討した結果、会計監査人の報酬等について妥当と判断し、会社法第399条第1項及び第3項の同意を行っております。
4. 上記以外に、前事業年度の監査に係る追加報酬15,000千円を支払っております。

## ③ 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）を委託していません。

## ④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の独立性、職務遂行状況、品質等について毎期評価・検討を行います。その結果会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の「解任又は不再任」を株主総会の目的とすることといたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### 3. 資本政策の基本的な方針及び剰余金の配当等の決定に関する方針

#### (1) 資本政策の基本的な方針

当社は、半導体業界を取り巻く環境変化を好機と捉えつつ、企業価値の向上を図っていくため、成長戦略投資と株主還元のバランスをとりながら、資本効率の向上に着実につなげていくことを、資本政策の基本的な方針としています。

この基本方針のもと、当社グループの成長を加速するために、研究開発・設備投資に対して積極的に経営資源を振り向ける所存です。

#### (2) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、企業価値の継続的向上を図るとともに、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題の一つとして位置付けております。このような観点から、利益配分につきましては、戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元の拡充として株主資本配当率(DOE)3%程度を当面の目標として実施してまいります。

内部留保資金につきましては、研究開発、設備投資、新たな事業分野への投資、財務体質の維持などに活用してまいります。

## 連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>24,714,896</b>	<b>流動負債</b>	<b>7,382,096</b>
現金及び預金	8,572,536	支払手形及び買掛金	1,200,122
受取手形及び売掛金	5,332,969	短期借入金	1,900,000
商品及び製品	6,193,443	1年内返済予定の長期借入金	1,470,496
仕掛品	2,199,331	リース債務	52,857
原材料及び貯蔵品	1,641,954	未払金	1,581,038
その他	777,874	未払法人税等	184,425
貸倒引当金	△3,213	契約負債	673
		賞与引当金	589,493
		役員賞与引当金	24,070
		その他	378,919
<b>固定資産</b>	<b>12,333,842</b>	<b>固定負債</b>	<b>5,072,708</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>9,201,486</b>	社債	100,000
建物及び構築物	3,101,302	長期借入金	4,264,360
機械装置及び運搬具	2,000,128	リース債務	95,206
工具、器具及び備品	399,281	長期未払金	27,984
土地	1,225,620	退職給付に係る負債	391,063
リース資産	158,304	株式給付引当金	77,183
建設仮勘定	2,316,849	資産除去債務	85,844
		繰延税金負債	1,703
		その他	29,362
<b>無形固定資産</b>	<b>583,080</b>	<b>負債合計</b>	<b>12,454,805</b>
ソフトウェア	530,708	<b>(純資産の部)</b>	
その他	52,371	<b>株主資本</b>	<b>24,100,165</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,549,276</b>	資本金	2,967,934
投資有価証券	937,875	資本剰余金	8,388,605
退職給付に係る資産	442,377	利益剰余金	13,422,586
繰延税金資産	774,009	自己株式	△678,960
その他	426,670	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>493,768</b>
貸倒引当金	△31,656	その他有価証券評価差額金	△105,201
		為替換算調整勘定	550,361
		退職給付に係る調整累計額	48,608
<b>資産合計</b>	<b>37,048,739</b>	<b>純資産合計</b>	<b>24,593,934</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>37,048,739</b>

## 連結損益計算書

( 2022年 4 月 1 日から  
2023年 3 月31日まで )

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	31,956,887
売上原価	21,935,691
売上総利益	10,021,195
販売費及び一般管理費	6,044,976
営業利益	3,976,219
営業外収益	
受取利息及び配当金	32,252
口イヤリテイ収入	3,954
受取賃貸料	42,202
その他	32,142
合計	110,552
営業外費用	
支払利息	66,885
支払手数料	8,000
為替差損	25,058
その他	5,528
合計	105,473
経常利益	3,981,298
特別損失	
減損損失	793,424
固定資産除売却損	54,095
投資有価証券評価損	132,033
保険解約損	10,180
その他	3,132
合計	992,867
税金等調整前当期純利益	2,988,430
法人税、住民税及び事業税	952,443
法人税等調整額	△143,820
当期純利益	2,179,807
親会社株主に帰属する当期純利益	2,179,807

## 貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>9,926,675</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,893,935</b>
現金及び預金	1,228,901	買掛金	1,190,477
受取手形	76,173	一年内返済予定の長期借入金	920,496
売掛金	2,203,773	リース債務	1,535
商品及び製品	5,836,220	未払費用	451,938
仕掛品	202,539	未払法人税等	54,374
前払費用	86,542	未契約負債	83,506
その他の	292,525	預り金	21
		賞与引当金	27,255
		役員賞与引当金	138,851
		その他の	24,070
		負債合計	1,408
<b>固定資産</b>	<b>10,464,448</b>	<b>固定負債</b>	<b>2,591,830</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,684,238</b>	長期借入金	2,026,860
建物	146,821	リース債務	2,942
構築物	242	退職給付引当金	391,063
機械及び装置	400,332	株式給付引当金	53,087
工具、器具及び備品	181,954	資産除去債務	82,303
リース資産	4,145	その他	35,573
建設仮勘定	1,950,742		
<b>無形固定資産</b>	<b>490,606</b>	<b>(純資産の部)</b>	
ソフトウェア	440,162	<b>株主資本</b>	<b>14,913,138</b>
その他	50,444	資本金	2,967,934
<b>投資その他の資産</b>	<b>7,289,602</b>	資本剰余金	3,347,811
投資有価証券	433,647	資本準備金	3,182,142
関係会社株式	5,697,799	その他資本剰余金	165,669
関係会社出資金	628,984	<b>利益剰余金</b>	<b>9,276,353</b>
繰延税金資産	217,967	利益準備金	77,500
その他	311,202	その他利益剰余金	9,198,853
		別途積立金	2,300,000
		繰越利益剰余金	6,898,853
		<b>自己株式</b>	<b>△678,960</b>
		評価・換算差額等	△7,781
		その他有価証券評価差額金	△7,781
<b>資産合計</b>	<b>20,391,123</b>	<b>純資産合計</b>	<b>14,905,357</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>20,391,123</b>

## 損益計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	12,614,202
売上原価	7,067,198
売上総利益	5,547,004
販売費及び一般管理費	3,895,739
営業利益	1,651,264
営業外収益	
受取利息	3,294
受取配当金	1,387,204
為替差益	94,586
その他	15,524
営業外費用	
支払利息	41,825
その他	10,780
経常利益	3,099,267
特別損失	
固定資産除売却損	14,730
投資有価証券評価損	132,033
保険解約損	10,180
税引前当期純利益	2,942,322
法人税、住民税及び事業税	423,704
法人税等調整額	1,983
当期純利益	2,516,635

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2023年5月24日

トレックス・セミコンダクター株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 猪 俣 雅 弘指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 戸 塚 俊 一 郎

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、トレックス・セミコンダクター株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、トレックス・セミコンダクター株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上



## 計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2023年5月24日

トレックス・セミコンダクター株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

業務執行社員

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士 猪 俣 雅 弘

公認会計士 戸 塚 俊 一 郎

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、トレックス・セミコンダクター株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第28期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査等委員会の監査報告

### 監査報告書

当監査等委員会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第28期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号口及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し意思決定の過程及び内容を確認し、取締役及び執行役員並びに使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社等において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

##### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。

##### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

##### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月25日

トレックス・セミコンダクター株式会社 監査等委員会

常勤監査等委員	池田耕太郎	㊞
監査等委員	小松 熙	㊞
監査等委員	川俣尚高	㊞
監査等委員	廣瀬由美	㊞

(注) 監査等委員池田耕太郎、小松熙、川俣尚高、廣瀬由美は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

## 株主総会会場ご案内図

- 会場 東京都中央区日本橋二丁目7番1号 東京日本橋タワー  
ベルサール東京日本橋 4階



### □ アクセス

- J R 東京駅八重洲北口より徒歩6分
- 地下鉄 銀座線、東西線、都営浅草線 日本橋駅B6出口(駅直結)  
半蔵門線 三越前駅B6出口より徒歩3分

※本総会専用の駐車場は用意がございませんので、ご来場にあたりましては公共交通機関のご利用をお願い申し上げます。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。